

平成26年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	国民体育大会事業			
予算科目	2 款 1 項 17 目			
総合計画での位置付け	教育・文化・スポレクの振興～うるおいと生きがいのひとづくり～ スポーツ・レクリエーションの振興			
所管課情報	担当課: 総務企画課		電話番号(内線): 509	
記入者情報	所属長: 海田 秀司		担当責任者: 高橋 洋司	
事業の性格	法定事務			
実施期間	【開始年度】平成 25 年度 【開始年度】平成29年度			
事業の対象				
根拠法令等				
事業の目的	平成29年開催の愛媛国体に向けた準備及び実施。			
事業の内容	地域をあげて選手や観客をもてなすなど、全国から訪れる人々との交流を通じた地域活性化を目指した準備及び実施。			
改善策の 具体的 取り組み (当初)				
改善策の 具体的 取り組み				

事業費及び財源内訳					
項 目		25年度決算	26年度予算	9月末の執行状況	26年度決算
事業費	直接事業費	0	4,884	2,000	4,439
	人件費	0	22,778	11,389	22,271
	合計	0	27,662	13,389	26,710
人件費 内訳	人工数	0.00	2.80	1.40	2.80
	人件費単価	0	8,135	8,135	7,954
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	0	22,778	11,389	22,271
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	0	27,662	13,389	26,710

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	25年度実績	26年度予定	9月末の実績	26年度実績
バレーボール教室	回数・人数	1回・85人	1回・61人	1回・61人	1回・61人
ホッケー教室	回数・人数	1回・18人	1回・18人	0	1回・18人
濃密バレー指導	事業・回数	1事業・8回	1事業・10回	0	1事業・10回
国体実行委員会活動	式	1	1	1	1

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	5年間の実績
	5,589	20,000	50,000	0	0	75,589

成果指標				
成果指標	教室数、参加人数、事業数、回数、実行委員会活動			
指標設定の考え方	えひめ国体の円滑な推進に資するため、PR活動や広報活動、競技力向上の取組み及び、実行委員会活動を指標とし、平成29年度開催の成功を目指す。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標28年度
目標	2教室1事業	2教室1事業	2教室1事業	2教室1事業
実績	2教室1事業	2教室1事業	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>・ホッケー、バレーの教室などを開催し、団体PRや競技力向上に努めた。・準備委員会から実行委員会へ改組し、えひめ国体推進体制の充実を図った。・長崎国体の情報収集に努めた。・市内各種イベントに出向き、PR活動や市民運動の拡大を図った。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>平成29年度に開催されるえひめ国体のうち本市で開催するバレーボール(少年男子)、ホッケー(成年男女)の準備に向け、本年度開催された長崎国体の視察、市実施組織について準備委員会から実行委員会への移行・開催、専門委員会の設置・開催、バレーボール教室の開催など、事業推進を図り、国体開催への機運の醸成、周知啓発を進めた。次年度からは、課を設置して、一層の周知啓発、国体開催前年度(平成28年度)開催のリハーサル大会の準備、「おもてなし」準備等を強力に推進するとともに、新たに実施種目となったビーチバレーについての準備を進める必要がある。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題